（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	えーる並木（児童発達支援及び放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2026年4月1日	～	2026年4月22日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	２２名	（回答者数）	17名
○従業者評価実施期間	2026年4月1日	～	2026年4月22日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	11名	（回答者数）	11名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	指導訓練スペースが十分に確保され、バリアフリー化も配慮されている。	利用者の特性に合わせて器具や設備を整備している。	より質の高い療育を目指し利用者の利益となるよう検討をしている。
2	アンケート調査等を通じ保護者の意向やニーズを把握し業務改善につなげられている。	送迎など保護者に接する機会を通じて利用者の様子などを伝えコミュニケーションを図っている。	保護者会などを企画していきたい。
3	職員の資質の向上のため研修の機会を十分確保できている、	東京都などが提供している各種研修に積極的に取り組み、府中療育センターから専門家をお呼びし実技指導などを提供していただいている。	ネットワークを広げより多くの専門家に来所してもらい専門知識について習得する機会を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールなどを使っていない。	専門知識をもったスタッフがいない。	専門家を探して座学・実習などを通じて学習する機会を持つ。
2	活動プログラムの立案をチームで行っていない。	活動プログラムの立案について特定の個人にゆだねる傾向がある。	チームとしての取り組みをするための組織づくりをする。
3	支援開始時にスタッフで一日の支援の内容や利用者の状況について情報共有することが難しい。	非常勤職員が全体の9割ほどいて出勤・退勤時間がまちまちなためなかなか打ち合わせを持つことができない。	効率的な情報共有の方法を確立することが必要である。タブレットなどのIT機器を利用することも検討する。